

## 第 I 部 生徒発表



### 「つながる力向上プログラム」

1年 藤原優子

まず、1年生の取組について発表させていただきます。私は、1年の藤原優子です。よろしくお願ひします。

私たち1年生は、「総合的な学習の時間」を使って、「つながる力」を身につける授業に取り組んできました。「つながる力」とは、人とのつながりや、社会とのつながりを望ましいものにするために必要な力のことを指しています。具体的にはコミュニケーション能力や、相手の行動や気持ちを読み取って自分の行動を考えられる力のことです。

その授業の中で、私たちが取り組んだものを二つ、みなさんに紹介します。

一つは、愛知県立刈谷東高等学校の兵藤友彦先生に講師として来ていただいた授業です。兵藤先生は、刈谷東高校で「演劇表現」という、コミュニケーション能力を身につける授業をされています。その授業の一部を私たちも体験させてもらいました。その中でも印象に残っているのが、割り箸を使ったペアワークです。二人の人差し指の指先で割り箸を押しようにはさみ、目を閉じてしゃがみます。そこから、声を出さずに割り箸を通して伝わる感覚だけをたよりに、立ち上がり、その後どちらかが体を回転させるというものです。初めは、割り箸を落としたり、相手がどのような動きをしているのかわからなかったりで苦戦しました。どちらが回転するか決めずに行うので、相手がどのような動きをしているか、自分はどの動けばいいのかわからず、指先に伝わる割り箸の感覚を通して想像するしかありません。しかし、兵藤先生から言われた「割り箸で会話をする」という言葉をヒントに、すべてのペアが次々とできるようになりました。相手との上手な距離感を保ち、理解し合うということがわかったような気がしました。

もう一つは、文化祭の取組です。私たちは大きなモザイクアートを作りました。このモザイクアートは、A3の紙105枚を使い、一枚一枚におよそ1cm角の折り紙を貼りつめたものです。単純作業なのですが、最初はなれない作業に手間取りました。しかし、友だち同士で会話をしながら作業すると時間を忘れていました。また、折り紙を切る人と貼る人に分かれて協力して作業する人もいました。最後には、ペースが遅い人や休んでいた人の分をみんなで手伝ったりもしました。そうしてやっと完成した作品は、とてもきれいで感動しました。

私たち1年生は、入学して間もない頃は授業中も騒がしくて、落ち着きがないと言われてばかりでした。しかし、この授業を通して協力して何かをしたり、クラスメイト同士のつながりは深まったように思います。

これから、2年生の企業見学についての発表をさせていただきます、2年生の吉岡和真です。よろしくお願いします。

私たち2年生は、去年の11月21日に京丹後市内の3つの事業所の見学をさせていただきました。見学先は、『総合老人福祉施設 弥栄はごろも苑』、『株式会社 峰山鉄工所』、『株式会社 タンゴ技研』です。

見学をするにあたって、まず事前学習を行いました。それぞれの事業所についてあらかじめ勉強をするとともに、失礼のないよう服装やマナーをあらためて見直しました。服装やマナーは、普段から学校生活で指導されていることと変わらず、社会に出ても同じように必要なことだということを、あらためて気づかされました。

最初に見学したのは、『弥栄はごろも苑』です。そこは、高齢者の介護を目的とした施設で、設備や食事だけでなく、生活空間、雰囲気といった細かいところまで配慮がされていました。『弥栄はごろも苑』では、仕事をしている方からとても心に残る話を聞かせてもらうこともできました。それは、「入居者の方に笑顔がこぼれ、ホッとできるような施設を目指しており、高齢者の笑顔がうれしくて働く源になっている。」という話です。働いている方それぞれがやりがいを持って仕事をされている姿をみて憧れを感じました。

次に見学したのは、『峰山鉄工所』です。機械部品などを製造されている事業所で、鉄を溶かす熱気の中で黙々と作業されている姿が印象的でした。鉄を溶かす熱とその鉄を成型するための巨大なハンマーの音に驚いてしまいましたが、そこで働いている方たちは、そんなことはものともせず、堂々と仕事をされており、とても忍耐力のいる仕事のように感じました。

最後に見学したのは、『タンゴ技研』です。有名な国産車の部品などを製造されており、今までこんな身近なところでつくられていたことを知りませんでした。2年生の中には地元で就職したいと考えている生徒も多く、身近なところにも優れた事業所がたくさんあることに気づくことができました。

それぞれの事業所の方の話を聞いて、「仕事のやりがい」について考えさせられました。すごく、ためになったし、自分もあんなふうになりたいと思いました。今の自分には、具体的な目標がありませんが、これからの2年間の高校生活の中で、なりたい職業を見つけたいです。それから、私はあと5年の内に結婚したいと思っています。今まで迷惑ばかりかけていた、おじいちゃん、おばあちゃんを安心させてあげたいからです。健康で長生きをしてもらいたい、家族みんなが笑顔で楽しく暮す。そんな人生を送ることが私の夢です。将来について真剣に考えることができた今回の経験をこれからの学校生活に活かしていこうと思います。

これで、発表を終わります。ありがとうございました。

間人分校では、3年生になるとインターンシップの職業体験に取り組みます。今年は7月17日から19日まで、9時から3時までの6時間の体験をしました。

クラスみんなの体験場所は、鉄工所、寿司屋、保育所、地元のFM放送局、パン屋、自衛隊、寺院などでした。みんな自分の進路の希望に応じた体験先を探しました。なかなか体験場所が決まらずに何度も先生と話し合いをして決めた人もいました。

友人の一人は、FM たんごで体験をして、実際に朝の番組で間人分校の紹介がオンエアされました。また、寿司屋で体験をした友人達は、実際にあじなどの魚をおろしたり、ばら寿司の上にのせるそばろを作ったりしたそうです。パン屋で体験した友人は、パンにレーズンやチョコチップ、ナッツ、シュガーなどのトッピングをしたりしたようです。

私の体験先は自衛隊でした。もともと、自衛隊に興味があり将来の職業として考えていたので、実際にどのような仕事内容なのか知りたいと思い、自衛隊に決めました。体験場所は自衛隊経ヶ岬分屯基地です。ここは航空自衛隊の基地です。自宅からかなり遠いので、行く前はちゃんと行けるのか少し心配でした。

体験の内容は、まず山頂にあるレーダー基地の見学をしました。他には、消防訓練、挨拶や敬礼などの教練、自衛隊の紹介ビデオの視聴、施設見学をしました。

体験で印象に残っていることは、消防訓練です。消防車を用いて放水の訓練をしました。水の圧力で全身ずぶ濡れになりました。実際の火災で消火作業をすることの大変さがよくわかりました。また、体験時期が夏だったため、暑い中での長時間にわたる挨拶や敬礼の練習には気が遠くなりそうでした。しかし、同時に挨拶や敬礼の教練は自衛隊員にとってはとても大事な基本なので体験できて良かったと思っています。また、ビデオも自衛隊の仕事が良くわかり良かったです。

今回インターンシップで、仕事の苦しさがわかりました。そして、仕事をしておられる人達がやりがいを感じ、誇りを持っておられることを知りました。クラスの友人達もみんな、仕事に対するイメージがかなりしっかりとつかめたのではないかと思いますし、また自分の将来についてしっかりと考える良いきっかけになったと思います。

インターンシップがきっかけとなり、体験先の保育所でボランティアとして受け入れをもらった友人もいますし、寿司屋でアルバイトとして引き続き頑張っていた友人もいます。

それぞれ3日間頑張っってやり通したということが少し自信につながったと思います。これから4年生になるといよいよ自分の進路に向けて進んでいかなければなりません。インターンシップでの貴重な経験が必ず活きると思います。

私は今回体験をして、一層自衛隊に入りたいという気持ちが強くなりました。自分の進路の実現まではまだまだ努力が必要ですがしっかりと頑張っていきたいと思っています。

## 「進 学」

4 年 内山理恵

4年生の内山理恵です。私から進学についてお話しします。進学希望の生徒の多くは、専門的な知識や技術を身に付けるために、専門学校や職業技術訓練校を目指します。やりたいことが決まっている人が多く、3年生の時にオープンキャンパスに参加するなどして、いろいろな学校の情報を集めていました。4年生になる頃には、希望分野はもちろんのこと、行きたい学校まで決めている人もいました。

私の場合は4年生になった後も就職か進学か迷っていました。やりたいことが絞れず、どうすれば良いか、悩む日が続きました。そんな時、家族で進路について話し合う機会をつくったことで、少しずつ自分のやりたいことが明確になっていき、進学して自動車整備の技術を身につけたいと考えるようになりました。

いくつかの学校の所在地、教育内容、進路実績などを調べ、受験校を決定し、エントリーシートの作成や面接練習を始めました。面接練習では、はじめは「なぜこの学校を志望したのか?」「この学校で何を頑張りたいのか?」「将来どのような仕事がしたいか?」などの基本的な質問に対しても、うまく答えることができませんでした。その原因は、進学について深く考えることができていなかったことと、思っていることをうまく表現できないことでした。しかし、多くの先生の指導のもと、何度も何度も練習を繰り返し、考えるなかで、少しずつ答えることができるようになっていき、自信を持って試験本番に臨むことができました。

4年生のうち、進学を目指した生徒は無事に全員が希望進路を実現することができました。自分が学びたかった内容が学べるということは楽しみですが、これまで以上に努力しなければならないと感じています。進学させてもらえること、家族に応援してもらっていることに感謝しながら、4月からより一層頑張ろうと思います。

## 「就 職」

4 年 平井雄太

こんにちは、4年生の平井雄太です。私から就職についてお話しします。間人分校は就職を目指す生徒が多く、1年生の時から、就職について考える機会が多く設定されています。代表的なものとしては、1, 2年生では分野別ガイダンスで、調理、美容、情報、福祉など興味がある分野についての説明を聞き、実習を行いました。さらに、3年生ではインターンシップに取り組み、職場で2日間仕事を経験しました。このような経験を経て、4年生となりましたが、多くの方は、何がしたいのか、はっきりとは決まっていませんでした。また、どのように就職活動をしていけばよいのかも分からず、不安な状況でした。

最初に取り組んだことは、さまざまな業種や職業の中から、どんな仕事がしたいのか考えることです。担任の先生と何度も面談を繰り返し、自分を見つめ直しました。やりたい

仕事が決まらなければ、就職活動ができないからです。それと平行して、授業では、就職活動の流れや求人票の見方、履歴書の書き方、効果的な自己PRの方法などについて学びました。

夏休みからは、個別での活動となりました。応募先が決まった人から、試験を受けていきました。私は、はじめ介護の仕事がしたかったので、9月から試験を受け始めました。面接練習を重ね、ある程度自信を持って試験に臨みましたが、2回不調に終わりました。いろいろな理由が考えられますが、欠席日数が多かったことも理由の一つだと思います。友達が合格していく中、くじけそうになるときもありました。しかし、受けなければ合格はしないので、その後も挑戦し、年が明けてから無事に内定を頂くことができました。最初に希望していた介護とは違いますが、人と接する仕事内容で、やりたいと思える仕事なので満足しています。

落ち込むときもありましたが、チャレンジし続け、とても良い経験ができたと思います。4年生には、まだ就職先が決まっていない生徒もいます。何とか全員の内定が決まることを願っています。また、卒業までにしばらく時間があるので、後輩に自分の経験を伝えることができれば良いなと思います。不安もありますが、4月から、精一杯頑張りたいです。